



上野にて

(撮影：桐原真希)

ロウバイ

■ やっと見つけた！

積雪の頃、蠟細工のようなレモン色の花を咲かせる木があります。その多くは、ソシンロウバイと呼ばれる中国原産の落葉低木です。私は黄色い花を見る度にその花を覗き込んで、中心の花被片の色を確かめています。ソシンロウバイは、花の全てが明るい黄

色で、ロウバイは真ん中が焦げ茶色です。ロウバイを探しきれないまま南部町に来て8回目の冬を迎えた年、その出会いは不意に訪れました。I田さんのお庭で、黄色い花が目に入ったのです。近付いて花の色を確認した時、思わず「やった！」と声が出てしまいました。今のところ、私が知っている町内唯一のロウバイの株です。

■ 梅の名は付けけれど

ロウバイもソシンロウバイも、江戸時代に渡来したと言われています。I田さんのお話によると、蕾の頃によく小鳥がロウバイを食べにくるとのこと。桜の花芽と同様に、野鳥の好物のようです。漢字で書くと梅の仲間かと思われがちですが、実は全く別の植物です。ウメはバラ科でロウバイはロウバイ科に分類されています。残念ながら、季節の話題でニュースや新聞で紹介される時「今年もロウバイの花が咲きました」と出てくる画像の多くはソシンロウバ

イです。是非メディアの方には、どちらの花なのかを正しく伝達してほしいものです。

■ 漢方にも

ロウバイの蕾を乾燥したものは「蠟梅花」「黄梅花」と呼ばれ、中国や東南アジアでは生薬として利用し、解熱などに効果があるとされています。しかし、有毒なアルカロイド系の物質も含まれていますので、安易な利用はお控え下さい。雪の中に映える眩しい黄色が見えたら、近付いて香りをかいでみましょう。きつとつとりとする芳香が楽しめると思いますよ。



雪の上に落ちたロウバイ

自然観察指導員

桐原真希

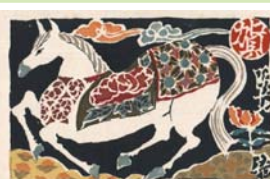
祐生会いの館【緑水湖畔】

■ 休館日：毎週火曜日(火曜日祝日は翌日)

■ 問合先：☎66-4755



昭和17年作品



昭和17年作品



昭和29年作品

第15回年賀状版画コンクール作品募集のお知らせ
祐生のガリ版を使った孔版画は独創によって開かれ、芸術にまで高められました。昭和11年からは、版画家の集う年賀状交換会「榛の会」50人の一人として、亡くなる昭和31年まで作品を提出し続けました。手作り版年賀状をお待ちしております。※17ページに応募要項を掲載しています。

【応募締切：1月21日（火）】